

平成25年度 第3回広報・広聴委員会会議録

日時 平成25年11月15日(金)午後0時15分～1時
場所 学習院百周年記念会館第4会議室
出席者 相京、櫛原、伊藤、五島、谷岡委員、
高木(事務局)

○開会あいさつ (相京副委員長)

○報告・協議

(1) 報告

1 会報94号について

ほぼ予定通りに刊行することができ、10月3日に発送作業を行った。

2 会誌の販売事務について

10月末現在、119冊、152,430円の売り上げがある。年間予算額の100,000円を大きく上回っている理由としては、2つの大学でバックナンバーをまとめ買いしてくれたことが挙げられる。

(2) 協議

1 会報95号の進捗状況

東京大会の特集号。報告者、記録者、参加記執筆者ら総勢28人に原稿を依頼済み。

1月10日を締切としており、60頁になる見込みである。これに対する意見、質問は特になかった。

2 会誌『記録と史料』第24号の進捗状況

(特集)

- ・前回会議で、東日本大震災臨時委員会の総括を特集として掲載できるか検討することになった。旧委員会事務局と折衝した結果、予定どおり独自の報告書を出すべく進行中なので、会誌では扱わないこととなった。
- ・そのため特集は、第2案の「公文書管理条例の実践」とすべく、条例を施行したすべての市町村に折衝した。その結果、宇土市、ニセコ町、草津市、小布施町に執筆いただけることになったが、①分量的にあと1、2本必要であること、②全体を俯瞰できる文章が冒頭に必要であることが課題となっている。
- ・協議の結果、①については、まず香川県に打診すること、難しい場合は鳥取県で書けるかどうか検討すること、大阪市からは執筆でなく取材ならOKと回答してくれているので、先方と五島委員のスケジュール次第では取材に行くことが確認された。②については、今大会に関連した報告をする太田富康氏に相談することとなった。

(論考)

- ・今のところ投稿は1本もないので、今号は掲載見送りでもやむを得ないが、国立公文書館の「アーカイブズ研修Ⅲ」の修了論文のうち、所属機関の研究紀要などの発表機会のない人に転載してもらうことも検討すべきである。まずは最近の論文のリストを作成して、打診する人を洗い出すこととする。

(世界の窓)

- ・掲載を見送る旨を確認した。

(アーカイブズネットワーク)

- ・従来候補に挙がっていた東京大学史資料室、神戸アーカイブ写真館、秋田県公文書館、中四国文書館等職員連絡会議の4件のほか、新たに品川区史、京都府立総合資料館、双葉町役場の公文書保全の3件の依頼を済ませ、全部で7本になった。

(書評)

- ・従来候補に挙がっていた『公文書管理と情報アクセス』、『大学アーカイブズの世界』、『公文書でたどる近代滋賀のあゆみ』に加え、『地方史活動の再構築』の依頼を済ませた。さらに大会会場で『企業アーカイブズの理論と実践』(企業史料協編)の掲載依頼を受けたので、執筆者も紹介してもらう条件で受諾した。都合5本になる。

(資料ふぁいる)

- ・調査研究委員会が実施した専門職アンケートの集計結果を載せる。この大会で配布された集計結果をベースに10ページでまとめるよう、同委員会事務局に依頼した。

(会員刊行物情報)

- ・例年に比べ回収率が低い。11月末の回答期限が近づいたら、機関会員に対し、メールで催促すること。それにより掲載件数の増加を目指す。

(広告)

- ・すでに申し出のあった2社に加え、今大会の出展企業に直接交渉したところ3社が載せると回答してくれており、都合5本となった。

○その他

- ・特になし。